

ふくおか FUKUOKA 市政だより

令和6(2024)年
5/15
No.1754



災害時に備え、水やパン、レトルトパックのご飯、紙おむつなどを保管する市の備蓄倉庫

今号の主な内容

特集 災害への備え ~今できることを~ 1~3

- 六月博多座大歌舞伎 船乗り込み 4
- 歯科健診を受診しましょう 5
- 脱炭素社会を目指し補助事業をスタート 6
- 情報BOX 7-14
- 区版 15-16

※本紙掲載の情報は4月26日時点のものです。

・中面折り込み「みずだより」

人口 1,645,863人 (前月比499人増) 男=775,905人/女=869,958人	面積 343.47km²
世帯数 877,520世帯 (前月比3,511世帯増) ※人口と世帯数は令和6年4月1日現在推計	ダムの貯水率 71.11% (4月26日現在)

- 市役所代表電話 ☎711-4111 (市外局番は092)
- 市政に関するご意見・要望・相談 広聴課 ☎711-4067 📠733-5580
- 福岡市政だよりの配布 毎日メディアサービス ☎0120-359-303

市長からの メッセージ

近年、全国各地で大雨や台風などの災害が多発しています。

市は、いざというときの行動につなげてもらえるよう、市民の皆さんに避難行動計画「マイ・タイムライン」の作成を推奨しています。また、市の防災アプリ「ツナガル+」は、避難所情報や市からの支援情報を入手できるほか、市に自分の避難場所を伝えたり、支援を求めたりすることができ、登録しておくことで安心です。

災害は、いつ起こるか分かりません。自分や家族の命を守るために、日頃から備えておきましょう。気象情報を早めに収集し、適切な避難行動をお願いします。

福岡市長 高島宗一郎



SDGs(エス・ディー・ジーズ)は、持続可能な社会の実現を目指す17の国際目標です。福岡市は、SDGsの達成に向けたさまざまな取り組みを進めています。



災害への備え〜今できることを〜

初夏から秋にかけて、梅雨前線や台風などの影響で、洪水や土砂災害などが発生しやすくなります。今のうちにどのような備えが必要かを考えておきましょう。



予期せず起こる地震と異なり、大雨や台風などの情報は、天気予報で事前を知ることができ、地域の災害リスクを知り、早めに対策して、被害を最小限にとどめましょう。

ハザードマップで災害のリスクを調べる

災害時に適切に行動するためには、自宅や職場などの周辺地域に、災害発生時の危険性はないか、どこに避難すればよいかを調べておくことが重要です。

●総合ハザードマップで各種災害のリスクを確認

市は、▽洪水▽土砂災害▽高潮▽博多駅周辺地区の内水▽地震による揺れやすさ▽津波▽ため池の災害リスクや避難場所

警戒レベル4までに必ず避難を

警戒レベル	避難情報等
5	災害発生または切迫 緊急安全確保
＜警戒レベル4までに必ず避難＞	
4	災害の恐れが高い 避難指示
3	災害の恐れあり 高齢者等避難
2	気象状況悪化 大雨・洪水・高潮注意報(気象庁)
1	気象状況悪化の恐れ 早期注意情報(気象庁)

災害発生の恐れがあると市が判断した場合に、避難情報を発令します。高齢者や障がいのある人など、避難に時間がかかる人は、警戒レベル3「高齢者等避難」までに避難してください。

その他の人も、警戒レベル4の「避難指示」までに必ず避難を完了してください。※警戒レベル5「緊急安全確保」の発令を待って避難してはいけません。

警戒レベル5は命に危険が迫っている状況です。避難が完了していない場合は、少しでも高い場所や、土砂災害の危険が少ない場所へ移動してください。

【避難は安全が確保できる場所へ】

身の危険を感じたら、早めに避難してください。避難所に行くことだけが避難ではありません。災害の危険のない親戚や知人宅、ホテルなどに避難することも選択肢の一つです。

マンションの上層階に住んでいる人などで、自宅の安全が確保できれば、在宅で避難することも可能です。

●建物の階数と浸水の深さの目安

4階	5m～10m未満 (3階床上浸水～4階軒下浸水)
3階	3m～5m未満 (2階床上～軒下浸水)
2階	0.5m～3m未満 (1階床上～軒下浸水)
1階	0.5m未満 (1階床下浸水)
1階床下	



私が一番伝えたいのは、周囲の人との「つながり」です。災害の規模が大きければ大きいほど、地域での支え合いが求められます。一人では行動しづらく

の活動を行っています。私が一番伝えたいのは、周囲の人との「つながり」です。災害の規模が大きければ大きいほど、地域での支え合いが求められます。一人では行動しづらく



総合ハザードマップの画面(イメージ)

スマートフォンからはこちら



また、区ごとに紙版の各種ハザードマップ(洪水、高潮、博多駅周辺地区の内水、地震による揺れやすさ)を作成し、情報プラザ(市役所1階)、各区総務課、各区役所情報コーナー、入部・西部出張所で配布しています。問い合わせは、防災推進課(☎711・4153) 733・5861へ。

●ため池も確認しよう

ため池(防災重点農業用)が自然災害で決壊した場合に想定される浸水の範囲や深さ、避難場所の情報をまとめた「ため池ハザードマップ」を、市ホームページ「福岡市ため池ハザードマップ」で検索し、掲載されています。ため池はできる限り水位を下げて管理していますが、万一の際に備えてマップを確認しておきましょう。問い合わせは、農業施設課(☎733・5541) 733・5583へ。

スマートフォンからはこちら



情報収集の手段を確保する

気象情報や防災情報など、必要な情報を必要な時に入手できるようにしておきましょう。

▽市防災メール

避難指示などの緊急情報や気象警報等を、携帯電話やパソコンにメールでお知らせします。

✉fukuoka-city@sg-p.jp に空メールを送信し、登録してください。

スマートフォンからはこちら



防災は日常の延長線上に

市が主催する防災リーダー養成講座の卒業生で構成される「博多あん・あんリーダー会」の会長・因幡那水さん(47)の話

防災士として、防災や減災をテーマに、講座やワークショップ、催し等を行い、「今日からできる備え」に気付いてもらうための活動を行っています。

私が一番伝えたいのは、周囲の人との「つながり」です。災害の規模が大きければ大きいほど、地域での支え合いが求められます。一人では行動しづらく



受け取れます。平常時には、近くの避難所の情報や災害時に取るべき行動を確認できます。

▽テレビのデータ放送(dボタン)

リモコンのdボタンを押すと、気象情報や防災情報が表示されます。災害時には市からの避難情報(高齢者等避難や避難指示など)や避難所開設情報などを見ることができます。

障がいがある▽携帯電話等を持っていない▽など、避難情報の入手が困難な人で、避難情報(「アラート情報を含む」)の配信を希望する人に、電話やファクスでお知らせしています。

情報を受け取るには、登録が必要です。申込用紙は、各区役所情報コーナー、入部・西部出張所で配布しています。送付を希望する人は、地域防災課(☎711・4156) 733・5861へ。ホームページ(福岡市)「避難情報配信」でもダウンロードできます。

でも、日常生活の中で近所の人たちとの関係性ができていれば、声を掛け合って行動を起こすこともできるでしょう。

散歩しながら、避難所となる公民館や小学校まで危険な所はないか確認したり、災害が起きた時の家族との連絡方法を決めておいたりすると安心です。こうした小さな備えが、いざという時に行動を起こすスイッチを入れてくれます。行ったことのある場所や知っている人がいる所であれば、避難へのハードルが下がります。

日常と非常時はつながっているように思います。普段からの備えや、地域とのつながりを大切にしていけば、災害時だけでなく、日々の生活も豊かになるのではないのでしょうか。

避難行動や避難生活を支援する 「ツナガル+」をご活用ください

「ツナガル+(プラス)」は、災害時に役立つ市の防災アプリです。災害が発生すると、自動的に災害モードに切り替わり、避難所の開設状況や混雑具合などが分かります。

また、在宅避難や車中泊など、市が開設する避難所以外の場所に避難している人も、市に支援を求めることができます。

平常時でも、浸水や土砂災害などの危険度、避難所の情報(位置、設備、ペット同行の可否、避難経路)などをマップ上で確認することができます。詳しい機能や登録方法などは、市ホームページ(「福岡市 ツナガル+」で検索)でご確認ください。

■問い合わせ先/防災推進課 ☎711-4153 F733-5861

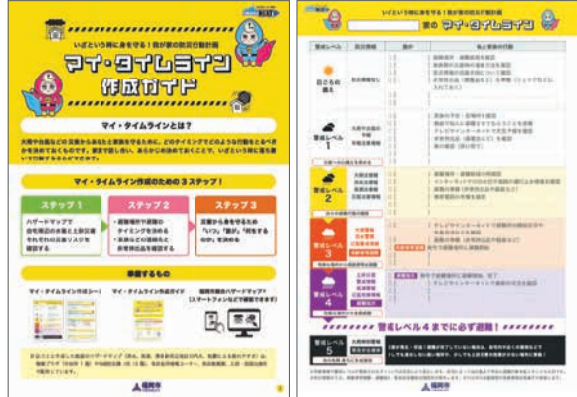


どこにいても物資支援の情報などを入手できます。



指定避難所以外の場所にいる人も、自ら情報を発信することができます。

マイ・タイムラインの作成ガイドには、作成のためのシートが付いています。



手書きで作成したい人に、詳しい手順を書いた作成ガイドを情報プラザ(市役所1階)や地域防災課(同15階)、各区役所情報

5861

コーナー、入部・西部出張所等で配布しています。市ホームページからもダウンロードできます。

■問い合わせ先/地域防災課
☎711-4156 F733-5861

「誰が」「何をするか」を時系列で整理するためのものです。作成

マイ・タイムラインとは、大雨や台風などの災害時に「いつ」「誰が」「何をするか」を時系列で整理するためのものです。作成

＜マイ・タイムライン作成の手順＞
①ハザードマップで自宅周辺の災害リスクを確認する②家族構成などを踏まえ、避難先や避難経路、避難するタイミングを決める③家族などの連絡先、非常持ち出し品や、在宅避難のための備蓄品をチェックする④「いつ」「誰が」「何をするか」を決める

ローリングストックで備蓄を

「ローリングストック」とは、食料や生活必需品を普段からやや多めに購入し、賞味(使用)期限が早いものから順に使用して、随時買い足す備蓄法です。



水道や電気、ガスなどのライフラインの停止に備え、3日～1週間分の水や乾麺、缶詰など常温保存できる物をそろえておきましょう。カセットコンロやガスボンベなどがあれば、温かい食事を取ることもできます。

●非常持ち出し品の準備も

自宅以外で避難生活を送ることも考え、下記の非常持ち出し品の他、常備薬や粉ミルク、紙おむつなど、個人特有の物もそろえておきましょう。

重すぎたり、取り出すのに時間がかかったりすると、避難に支障を来します。持ち物を厳選してリュックなどにまとめ、すぐに持ち出せる場所に置いておくと安心です。

＜非常持ち出し品の一例＞

- 食料 □飲料水 □救急セット □下着
- 現金 □身分証明書 □携帯電話の充電器
- 携帯ラジオ □懐中電灯など

詳細は、市ホームページ(「福岡市 家庭での備蓄」で検索)を確認を。

■問い合わせ先/地域防災課 ☎711-4156 F733-5861



ゴーグルを着けて風水害を擬似体験

市民防災センターは、さまざまな災害の疑似体験を通して、防災に関する知識や対処法などを学べる施設です。

VRで風水害を擬似体験
VR防災体験では、ゴーグルを着けて、仮想現実の世界で雨による水しぶきや煙の臭い、震度7の揺れなどを体感できます。

このほか、水圧でドアが開けられなくなることを体感するコーナーもあります。写真。詳細は、市ホームページ(「福岡市民防災センター」で検索)でご確認ください。



水深10〜40センチ(大人のくるぶしから膝上程度の水圧)の力を体感

風水害のコースでは、豪雨の中、冠水した道路を自動車で走行する疑似体験をします。今にも氾濫しそうな川のそばを走ったり、目の前で崖が崩れてきたり、風で飛ばされた木の枝が車にぶつかりそうになったり、臨場感ある映像で危険性を学びます。

■問い合わせ先/市民防災センター(早良区百道浜一丁目)
☎847-5991(予約専用) F847-5970
開午前9時30分〜午後5時 休無料 休月曜日、最終火曜日(祝休日の場合は翌平日)